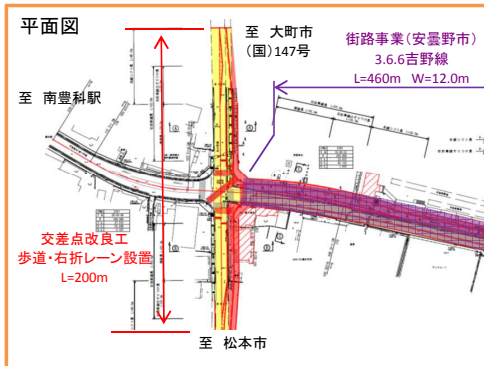


(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

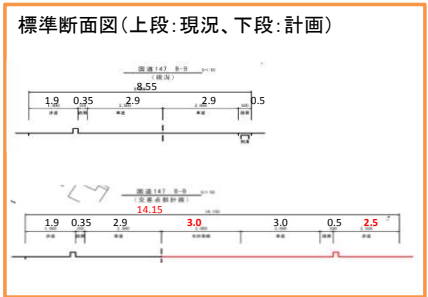
事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)147号	
事業毎の通番		2	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	本吉町(もとよしちょう)
事業概要	事業目的	一般国道147号は、大町市と松本市を結ぶ幹線道路として利用されています。このうち、本吉町交差点付近においては、豊科高校や南安曇農業高校があり、南豊科駅から本吉町交差点を往来する通学利用者が多い。 平成27年度から、安曇野市において街路事業(吉野線)が施行され、当該路線と交差点計画を有することから、一体的な整備要望があります。このため、交差点改良(右折レーン設置、歩道設置)を計画するものです。				
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	第5編 施策の総合的展開 第4章 4-2 県民生活の安全確保 第5章 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり	事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	安曇野市街路(交付金)事業 3.6.6吉野線 (H27~)				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益対象 小中学生、高校生他 不特定多数 現況自動車交通量:15,794台/日、現況自転車歩行者交通量93台・日/12h				
	着手年度	平成29年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	
	完成年度(見込み)	平成33年度	費用対効果		国庫	165,000
	全体事業内容(主な工種)	交差点改良工 L=200m (右折レーン設置、歩道設置)		300,000	165,000	121,500
	年度事業内容(主な工種)	詳細設計工 1式		65,000	35,750	26,325
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	通学路安全対策			
		間接的効果(定量的・定性的)	交通渋滞や危険箇所の解消			
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量 : 15,794台/日 ○現況自転車歩行者交通量 : 975台・人/12h			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 1つ整合(安曇野市街路事業) ○緊急輸送路の路線指定 : 県緊急輸送路(第一次)に指定			評価	A
	効率性	○事業期間 : 5年			評価	C
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 3件(H25) ○通学路対策 : 該当なし、豊科南小学校通学路 ○現況の歩道幅員 : なし			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(安曇野市街路事業として計画あり) ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 事業目的について合意が図られている。 ○住民との協働 : 住民関与が低い事業			評価	C
	部意見	交通量の多い路線であり、安曇野市街路事業によって市道が拡幅されると交通渋滞が予想される交差点であるため、安全な交通空間の確保のため早期の改良が必要である。	行政改革課意見	現道交差点は右折レーンがないことから慢性的な渋滞が発生し、歩道も一部未整備で円滑な交通に支障をきたしていることから、必要性が高く、重要性、緊急性も認められる。	評価結果	○
					総合評価	A

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	一般国道147号は、大町市と松本市を結ぶ幹線道路として利用されている。このうち、本吉町交差点付近においては、豊科高校や南安曇農業高校があり、南豊科駅から本吉町交差点を往来する通学利用者が多い。平成27年度から、安曇野市において街路事業(吉野線)が施行され、当該路線と交差点計画を有することから、一体的な整備要望があり、交差点改良(右折レーン設置、歩道設置)を計画するもの。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	安曇野市及び吉野地区から歩道設置及び交差点改良(右折レーン設置)の要望がされている。		
③事業説明等の経緯	安曇野市街路事業として計画説明を実施		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	安曇野市街路事業(3.6.6吉野線)		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	特になし		
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業によって歩行者の安全確保が図られるとともに、交通混雑の緩和にも期待がされる。		
⑦その他	本吉町交差点(国道区域)の事業実施について、街路事業(交付金)を所管する県都市・まちづくり課との事前調整を要する。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 54' 24" 23 東経:E 36° 17' 29" 06